

K断層 破碎部性状 H24-H-6 深度9.92~14.69m(肉眼観察による断層岩区分(1/3))

- ・深度9.92~10.04mの「粘土混じり礫状破碎部(Hj)」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度10.04~10.50mの「粘土・礫混じり砂状破碎部(Hb)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

破碎部性状の記事

- 9.92~14.69m: 破碎部(K断層)
- 9.92~10.04m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)
上盤76°、下盤69°。上盤、下盤とも比較的明瞭。上端は直線状をなし、下端側は湾曲する。明赤灰色を呈する。幅4~5cm程度。
- 10.04~10.50m: 粘土・礫混じり砂状破碎部(Hb)
上端69°、下端86°。灰赤色の細脈がみられ、原岩の組織は不明瞭である。一部に花崗斑岩岩片(くさり礫)がみられる。明赤灰色を呈する。幅10cm程度。
- 10.50~10.50m: (細)砂混じり粘土状破碎部(Hc-2)
傾斜86°。ほぼ直線状に連続する。にぶい黄色を呈する。幅6~7mm程度。
- 10.50~10.66m: 礫質粘土状破碎部(Hb)
上端86°、下端72°(不明瞭)。灰赤色の細粒分からなる細脈を伴う。明赤灰色を呈する。幅3cm程度。
- 10.66~14.69m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)
上端72°(不規則)、下端69°(ほぼ直線をなす)。不規則に灰白色の粘土脈を伴い、原岩の組織が一部不明瞭となる。数条のせん断面を伴う。灰黄褐色、浅黄橙~灰白色を呈する。幅1.30~1.40m程度(推定)。
- 11.15~12.40m: コア流出
- 13.93~14.00m: せん断面(粘土・礫混じり砂状破碎部(Hb)相当)
上端55°、下端54°。せん断面と調和的に灰白色粘土脈が連続する。幅40mm程度。
- 14.12m: せん断面
傾斜41°で、シャープであるが湾曲する。上端側に灰白色粘土に富む部分がみられる。
- 14.67m: せん断面
傾斜69°。せん断面に幅2~3mmの灰赤色粘土がみられる。上下端には灰白色粘土が不規則にみられる。

コア写真



凡例
 断層ガウジ ← → 破碎部範囲※
 ※: 写真上は白色で記載

K断層 破碎部性状 H24-H-6 深度9.92~14.69m(肉眼観察による断層岩区分(2/3))

- ・深度10.50mの「(細)砂混じり粘土状破碎部(Hc-2)」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度10.50~10.66mの「礫質粘土状破碎部(Hb)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

破碎部性状の記事

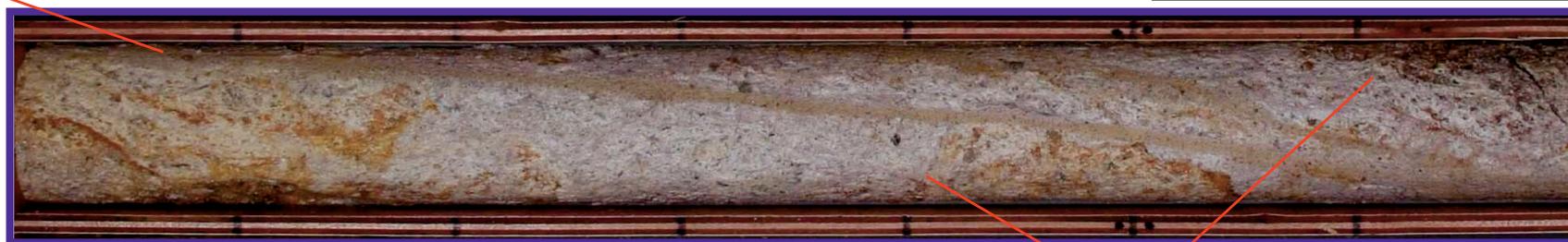
- 9.92~14.69m: 破碎部 (K断層)
- 9.92~10.04m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)
上盤76°, 下盤69°。上盤、下盤とも比較的明瞭。上端は直線状をなし、下端側は湾曲する。明赤灰色を呈する。幅4~5cm程度。
- 10.04~10.50m: 粘土・礫混じり砂状破碎部(Hb)
上端69°, 下端86°。灰赤色の細脈がみられ、原岩の組織は不明瞭である。一部に花崗斑岩岩片(くさり礫)がみられる。明赤灰色を呈する。幅10cm程度。
- 10.50~10.50m: (細)砂混じり粘土状破碎部(Hc-2)
傾斜86°。ほぼ直線状に連続する。にぶい黄色を呈する。幅6~7mm程度。
- 10.50~10.66m: 礫質粘土状破碎部(Hb)
上端86°, 下端72°(不明瞭)。灰赤色の細粒分からなる細脈を伴う。明赤灰色を呈する。幅3cm程度。
- 10.66~14.69m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)
上端72°(不規則), 下端69°(ほぼ直線をなす)。不規則に灰白色の粘土脈を伴い、原岩の組織が一部不明瞭となる。数条のせん断面を伴う。灰黄褐色、浅黄橙~灰白色を呈する。幅1.30~1.40m程度(推定)。
- 11.15~12.40m: コア流出
- 13.93~14.00m: せん断面(粘土・礫混じり砂状破碎部(Hb)相当)
上端55°, 下端54°。せん断面と調和的に灰白色粘土脈が連続する。幅40mm程度。
- 14.12m: せん断面
傾斜41°で、シャープであるが湾曲する。上端側に灰白色粘土に富む部分がみられる。
- 14.67m: せん断面
傾斜69°。せん断面に幅2~3mmの灰赤色粘土がみられる。上下端には灰白色粘土が不規則にみられる。

コア写真



凡例
 断層ガウジ   破碎部範囲※
 ※: 写真上は白色で記載

深度10.50mの粘土



青枠部拡大

細粒部が網目状に分布する

0 5 cm

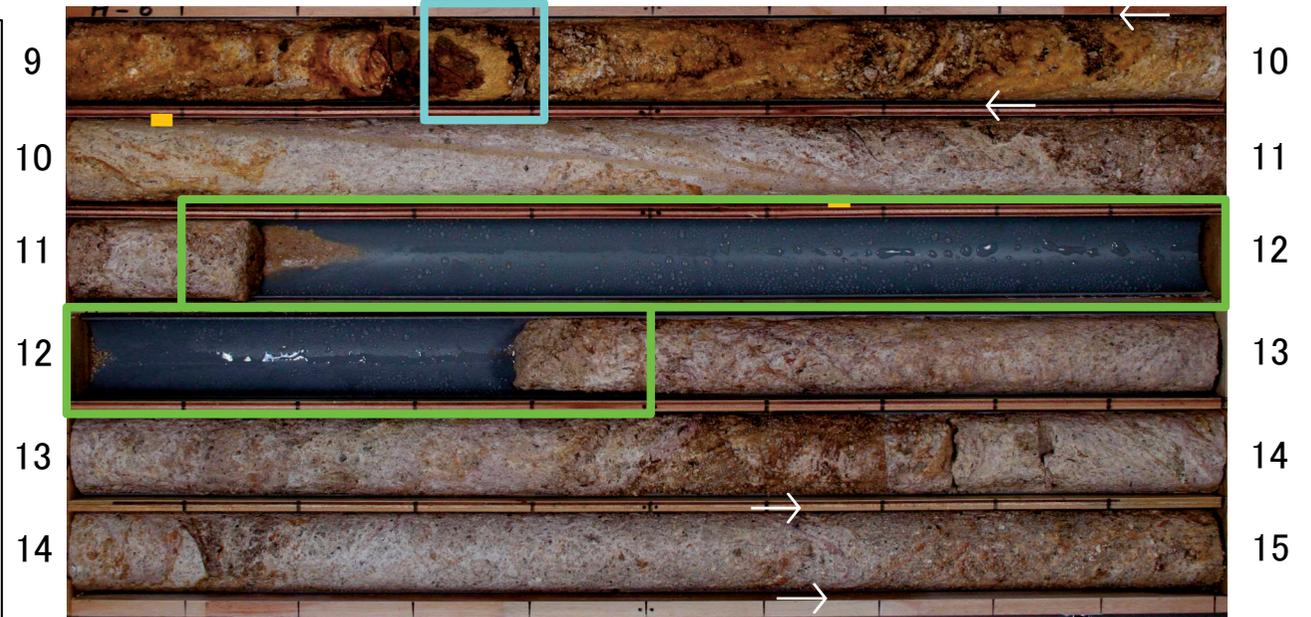
K断層 破碎部性状 H24-H-6 深度9.92~14.69m(肉眼観察による断層岩区分(3/3))

- ・深度10.66~14.69mの「粘土混じり礫状破碎部(Hj)」と記載の箇所については、やや硬質~やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・なお、深度11.15~12.40mのコア欠如区間については、当該区間付近のBHTV孔壁展開画像には、連続的かつ直線的な細粒部は認められない。

破碎部性状の記事

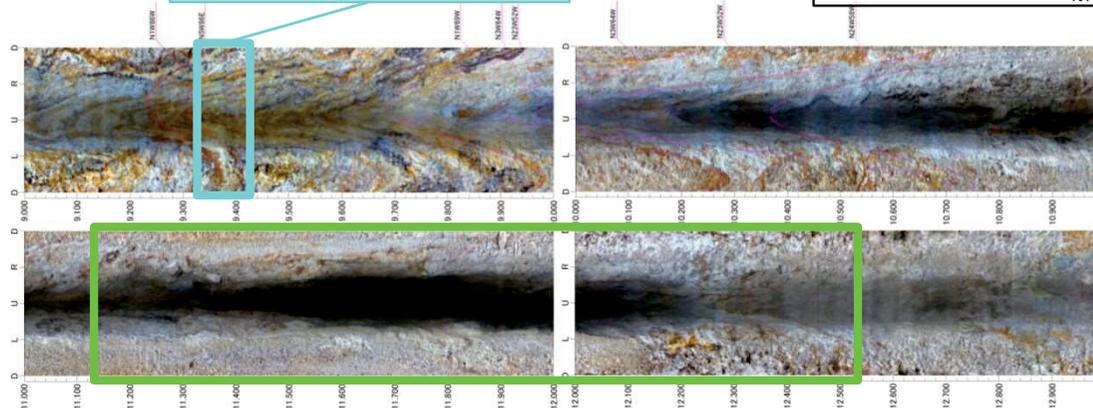
- 9.92~14.69m: 破碎部(K断層)
- 9.92~10.04m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)
上盤76°, 下盤69°。上盤、下盤とも比較的明瞭。上端は直線状をなし、下端側は湾曲する。明赤灰色を呈する。幅4~5cm程度。
- 10.04~10.50m: 粘土・礫混じり砂状破碎部(Hb)
上端69°, 下端86°。灰赤色の細脈がみられ、原岩の組織は不明瞭である。一部に花崗斑岩岩片(くさり礫)がみられる。明赤灰色を呈する。幅10cm程度。
- 10.50~10.50m: (細)砂混じり粘土状破碎部(Hc-2)
傾斜86°。ほぼ直線状に連続する。にぶい黄色を呈する。幅6~7mm程度。
- 10.50~10.66m: 礫質粘土状破碎部(Hb)
上端86°, 下端72°(不明瞭)。灰赤色の細粒分からなる細脈を伴う。明赤灰色を呈する。幅3cm程度。
- 10.66~14.69m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)
上端72°(不規則), 下端69°(ほぼ直線をなす)。不規則に灰白色の粘土脈を伴い、原岩の組織が一部不明瞭となる。数条のせん断面を伴う。灰黄褐色、浅黄橙~灰白色を呈する。幅1.30~1.40m程度(推定)。
- 11.15~12.40m: コア流出
- 13.93~14.00m: せん断面(粘土・礫混じり砂状破碎部(Hb)相当)
上端55°, 下端54°。せん断面と調和的に灰白色粘土脈が連続する。幅40mm程度。
- 14.12m: せん断面
傾斜41°で、シャープであるが湾曲する。上端側に灰白色粘土に富む部分が見られる。
- 14.67m: せん断面
傾斜69°。せん断面に幅2~3mmの灰赤色粘土がみられる。上下端には灰白色粘土が不規則にみられる。

コア写真



・深度9.35~9.39mの浅黄橙色部
コアとBHTV展開画像の深度は約
3cmずれている

凡例
 断層ガウジ
  破碎部範囲※
 ※: 写真上は白色で記載



BHTV展開画像

K断層 破碎部性状 H24-H-6 深度9.92~14.69m(薄片作製位置)

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。



※断層面 α は最新活動面

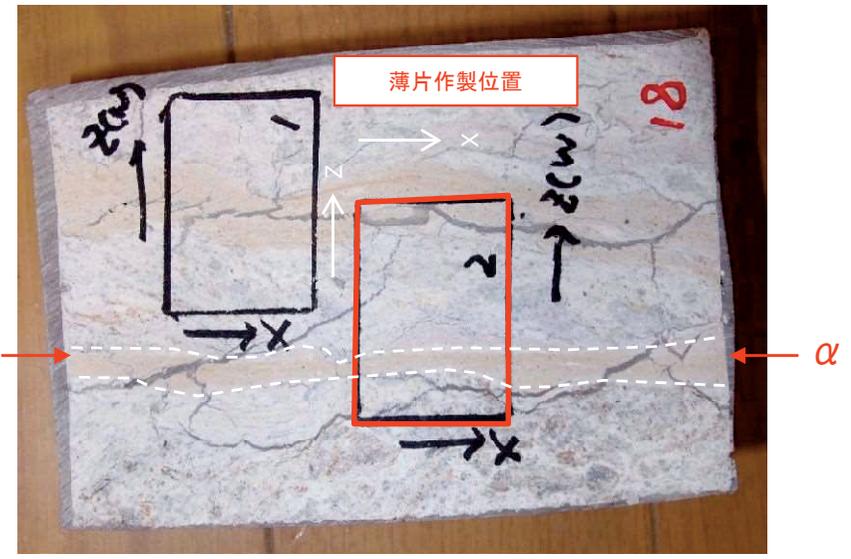
凡例

← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載

■ 断層ガウジ

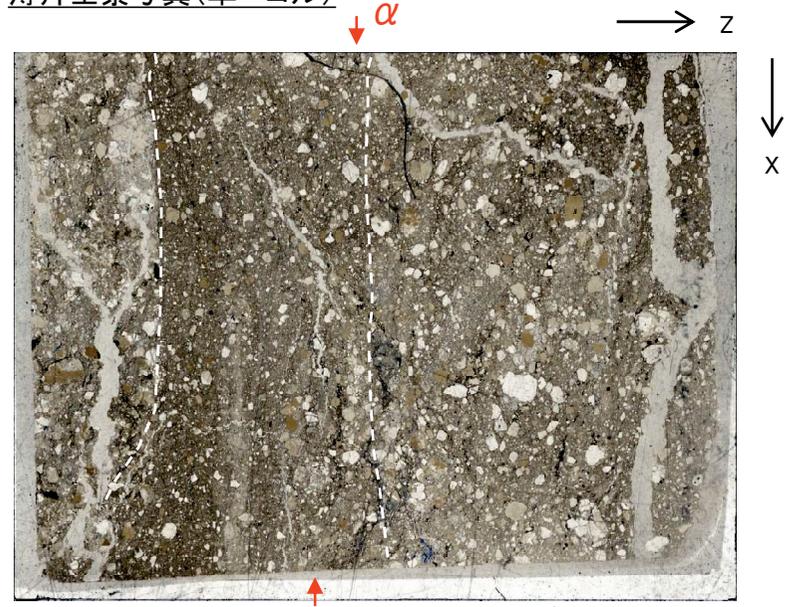
↘ 断層面

薄片作製位置写真



X:糸線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

薄片全景写真(単ニコル)



X:糸線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

凡例

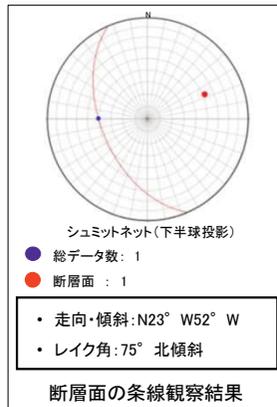
↘ 断層面 - - - - - 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※
※:写真上は白色又は黒色で記載

1 cm

K断層 破碎部性状 H24-H-6 深度9.92~14.69m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

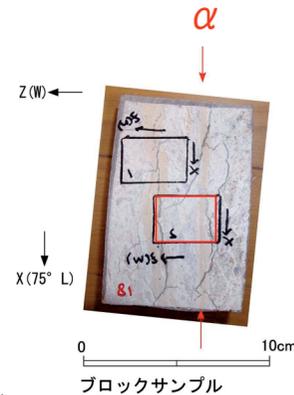
- ・H24-H-6のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、逆断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。

※断層面 α は最新活動面

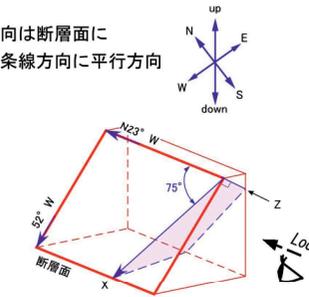


最新活動ゾーン

断層面の条線観察結果

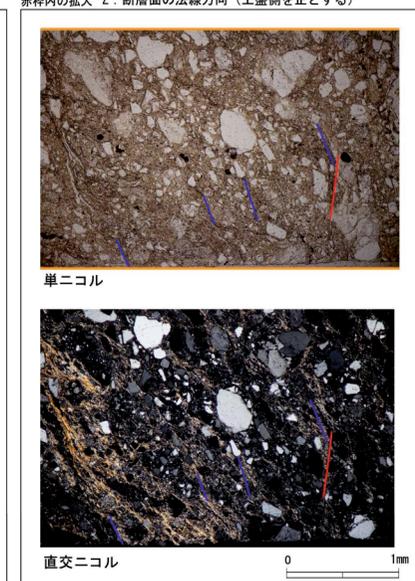
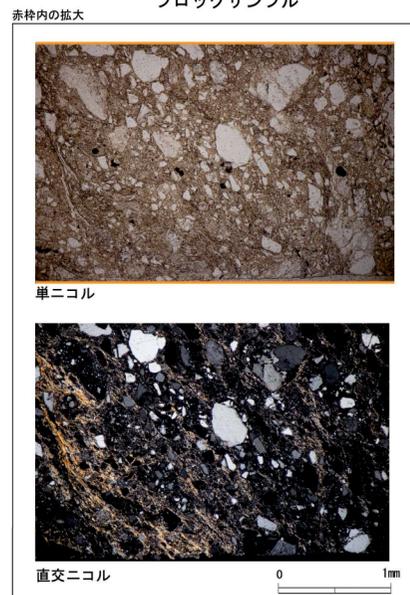
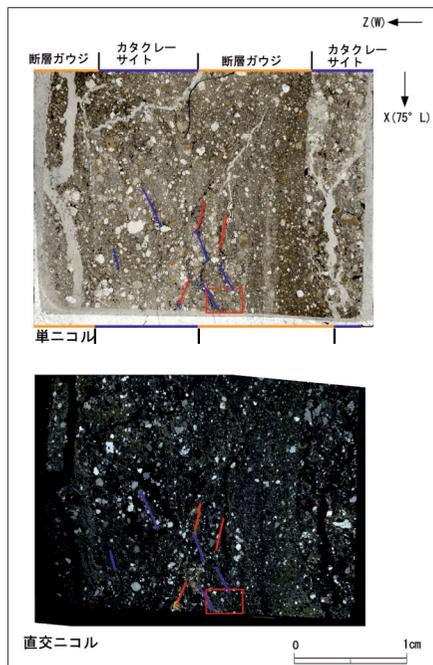
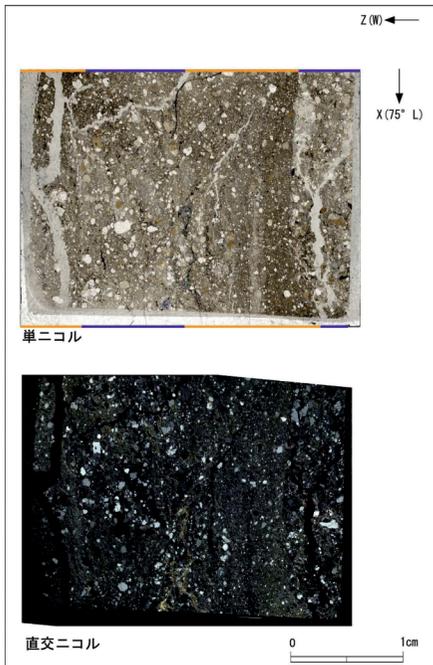


薄片の作製方向は断層面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜 N23° W52° W
 X: 条線方向(下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ (Orange line)
 - カタクレーサイト (Blue line)
 - R1面 (Red line)
 - P面 (Purple line)